

校長室の窓から

【NO.13】

「埴生に生まれてよかった！」 という想いに…



「コロナで大変な一年なのに、町や地域のために先生方や子どもたちが頑張っていることが伝わってきて、心が温かくなりましたよ」

「『地域のことを大切にして、すばらしい取り組みをしていますね』と、子どもたちに伝えてくださいね」

11月6日(金)の信濃毎日新聞の朝刊に載せていただいた3年生の記事をみて、地域の方々から心温まるお電話を学校にたくさんいただきました。

【信濃毎日新聞 11/6朝刊(掲載許可済)】

「自分のふるさと埴生のよさをとらえ直し、愛着と誇りがもて、自らの学びを紡いでいき、“埴生に生まれてよかった”という実感」を得られる子どもたちの姿を願って、教科横断的・系統的・螺旋的・連続的な学びの『埴生学』を、どの学年でも、子どもたちを真ん中において進めています。

小学生の時に一緒に学んだ仲間がいる、お世話になった地域の方々がいる、あんなに素晴らしいふるさとが自分にはある…。

たとえ大学生や社会人になって、いったんは大都会に出たとしても、「やっぱり自分は埴生がいいな」と思って、もどってくる気持ちにさせるような心の宝物を、いま、ここで心の中に育てたらいい、そんな学びが友とともにできればいいなと願っています。

お陰様で、子どもたちの笑顔輝く活動がたくさん見られています。



【こんな交流ができてすごいな】

リモートで交流…

例年行っている稲荷山養護学校との交流会も、新型コロナウイルスの影響で、今年は無理かなと思っていましたが、5年生がリモートでの交流会に挑戦。

歌を歌い合ったり、クイズを出し合ったり、楽しいひとときを共有していました。時代の流れを感じますねえ。



◎『すてきな埴生っ子紹介』は、校長室の廊下の壁に貼ってあります。ご来校の際にぜひご覧いただけたら幸いです。 【文責：田中寿一】